

21世紀の 都市と計画パラダイム

吉川 和広 編著



A5判・294ページ。
定価4944円(税込)。
平成7年7月30日初版発行。
同年8月3日受付。
〒113 東京都文京区
本郷2-38-3
丸善発行。
TEL.03-5684-5571

21世紀を目前にして20世紀の規範が見直されており、それに連動して諸々のインフラストラクチャ(社会基盤)のパラダイム(範列)が問い直されている。本書は、これまでインフラ整備においてインフラストラクチャの1次近似的整備に邁進し、量を追い求めて質を等閑にしてきたという問題意識から、都市や地域を見直し、インフラストラクチャを環境や人間との関わりから考え直し、計画プロセスを専門家や住民との関わりから捉え直し、計画がプロジェクトとして現実のものになるマネジメントの仕方を再吟味したものである。具体的には、インフラ整備の対象として創造的な都市地域、地域水利用システム、参加型計画、プロジェクト・マネジメント・システムを取り上げ、それぞれの機軸に沿ってパースペクティブ(型紙)の描写を試みている。

本書は15名の分担執筆によるものであり、また各章ごとに異なった執筆者が独自の視点で論を展開しているために、同じことを違った表現で説明しているところもある。ただ、共通のテーマとして、21世紀を代表すべき都市・地域はいかにあるべきか、また21世紀に求められるインフラストラクチャ及び土木計画学のパラダイムは何かということが論じられており、土木計画学の今後を考える上で有用な1冊であろう。 【オ】

地震学校

—先生たちの神戸大地震

江川 多喜雄 編著



B5判・131ページ。
定価2000円(税込)。
平成7年8月15日初版発行。
同年8月4日受付。
〒167 東京都杉並区
下井草4-32-17
星の環会発行。
TEL.03-3395-5611

かつて兵庫県で土木関係の幹部であった人が、「昔、学者が活断層、活断層と盛んにいっていたのはこのことだったのだということが、はじめてわかった」というように、何事もなく過ぎていくときは、地震に関する言葉や知識はあっても、その現実の恐ろしさまでは想像しない、できないものです。それゆえ、「地震だ。……かなり大きい。……これはすごい。……まさか! ……うそだ!! ……そんなはずはない!!!」

「大魔人が家を持ち上げて、ゆさぶっているのかと思った」
「まるで洗濯機か、ミキサーのなかにいるようだった」

紙面の写真から、文章から強烈に飛び込んでくる阪神大震災の実態は、何度読み返してもかなりショッキングです。

この本は、今まで地震を軽視してきた理科教育に対する反省から、地元神戸の先生を中心として、地震に対する基礎知識の普及を目的に書かれています。前半の阪神大震災の報告に臨場感があるので、後半の少し難しい地震のメカニズムも、神戸を例にとっていることもあり、真剣に読み進んでしまいます。

安全な街をつくるため、地震に負けないコミュニティをつくるため、神戸の経験を決して無駄にしないのだ、という被災地神戸の力強さを感じられる内容です。 【な】